

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年4月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4770400309
法人名	医療法人 一灯の会
事業所名	グループホーム 月桃
所在地	〒904-2143 沖縄県沖縄市知花 5-24-18 (電話) 098-934-1932

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成21年3月26日

## 【情報提供票より】(2009年2月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費6,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(2月21日現在)

利用者人数	9 名	男性 5 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 80 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	沖縄中央病院、中部徳洲会病院、たけしま歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は本島中部に位置する知花城跡の近くで、自然豊かな環境のもと、道を隔てた隣に法人の母体病院がある。医療連携加算は取っていないが、病院とは24時間の医療連携ができており、災害などの緊急時の応援体制も確立している。調査を通して、管理者の「職員同士の穏やかな人間関係の中で、利用者がゆったりとその人らしく過ごせるような支援がしたい」という思いが伝わってきた。平成14年開設の事業所として、運営規程や重要事項説明書等の文言の見直しも、今後取り組む予定である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題のうち、地域とのつきあい、運営推進会議を活かした取り組み、市町村との連携については改善に取り組みした。重度化や終末期に向けた方針の共有、入浴時の同性介助、センサー無しでのケアについては、全職員で検討した結果、現状では無理があると判断しとりくめなかった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員は評価項目を理解することが事業所のサービスの質を振り返る機会になると考えており、今年も自己評価は職員全員で話し合って作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では利用者の様子や事業所の状況を報告して、各委員の意見を事業所の運営に活かしている。その中で前回の評価結果を報告し改善への協力をお願いしたところ、委員からの助言や提案が改善につながった。自治会老人会長の提案で老人会主催の行事に参加した。市代表の委員から情報を得て市主催の研修に参加したり、市の担当窓口を訪問して介護保険の相談をしたりしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置しているが利用はなく、家族の意見は面会時に聞いている。ホームの行事には家族会の協力が得られるので、行事の前に開かれる家族会の場でも意見を聞いている。利用者の暮らしぶりや心身の変化については、面会時に家族に報告し、面会の少ない家族や急を要する場合は電話で報告したり、家族と面談したりしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>前回の外部評価結果を運営推進会議で報告し検討した中で、自治会老人会長から老人会主催の「第1回昔なつかし作品展」に参加してほしいとの提案があり、職員と利用者が一緒に参加した。隣にある法人の母体病院の行事にも職員と利用者が一緒に参加している。管理者は保育園との交流も考えている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族や地域、関係機関との連携を密にし、利用者が地域社会の一員として地域と関わりある生活が送れるように支援する」ことを柱に、利用者が家族的環境のもと、安心と尊厳のある暮らしが続けられるよう支援する内容の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内に掲示されている。職員は毎朝、申し送り終了後に理念を読み上げ、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外部評価結果を運営推進会議で報告・検討し、自治会老人会長から老人会主催の「第1回昔なつかし作品展示会」の案内を受け、職員と利用者が一緒に参加した。隣接する母体病院の行事にも参加しており、保育園との交流も考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は今年も職員全員で話し合って作成した。管理者と職員は評価結果を確認し、評価項目を理解することが事業所のサービスの質を振り返る機会になると考えている。改善課題を検討し、具体的な改善にも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。議事録は毎回作成され、事業所で自由に閲覧でき、希望すればコピーをもらえる。前回の外部評価結果も会議で報告して改善への協力をお願いし、委員からの助言が改善につながった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	改善課題として前回指摘を受け、今年度は推進委員である地域包括支援センターの職員から市主催研修会等の情報を得て参加している。必要に応じて市の担当窓口を訪れ、介護保険に関する相談等もしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや心身の変化については、面会時に家族に報告している。面会の少ない家族や急を要する場合は電話で報告したり、家族と面談したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが利用はなく、面会時に家族の意見を聞いている。ホームの行事には家族会の協力があり、行事の前に開かれる家族会の場でも意見を聞くことができる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の自己評価に基づいて個人面談を行い、職員が向上心を持って働き、事業所への定着化につながることを目指して努力している。職員の異動の際は利用者が動揺しないよう、他の職員がカバーし話し相手になっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自主的に沖縄県グループホーム連絡協議会、県、市そして母体法人の主催する研修会に参加し、全体ミーティングで研修報告をしている。認知症介護実践研修は管理者だけが受講している。	○	運営者は職員を計画的に育成できるよう、職員が働きながら資格アップを目指し誇りを持って働き続けられるよう応援し、積極的に関わることに期待したい。認知症介護実践研修を一人でも多くの職員が受けられることも望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡協議会に加入し、他ホームを相互訪問したり視察したりして同業者との交流を持っている。また、ドライブの途中で利用者に関わりのある地域のホームに寄って、利用者も一緒に交流したこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する場合は母体病院の認知症専門医の診察を受けてもらい、本人の状態像を基に安心してサービスが始められるよう対応している。管理者は本人と家族に事業所を見学して貰い、本人との面談、家族への説明をし、職員の意見も聞いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	英語検定1級、習字、歌などの特技を持った利用者が教師になって、職員や他の利用者が教わる場面作りをしている。また、洗濯物たたみや食器洗い、お膳拭きなど利用者の能力に応じた役割分担もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを基に、毎日、朝の会で利用者に関する申し送り事項を確認している。その日の支援方法は、利用者の心身の状態に応じて声をかけ、本人の希望を聞いて決めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を兼務する管理者が家族や医師、薬剤師、職員の意見をそれぞれに聞いて介護計画を作成している。全員が一緒に参加するカンファレンスは行っていない。	○	カンファレンスを開催することで、個別に意見を聞くだけでなく、互いにアイデアを出し合い、利用者主体の介護計画の作成に取り組めることに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の心身の変化に応じて介護計画の見直しをしているが、介護サービス計画書に評価の記録がない。	○	定期的に個別介護記録から支援目標の達成状況を確認し、計画の評価を行い、それを見直しへとつなげたことを記録しておくことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の健康管理、医療活用で母体病院と24時間連携できる体制が確立している。信者である利用者に面会して話を聞いてくれる宗教関係者を受け入れている。また、自宅への外出支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に認知症については母体病院の認知症専門医を主治医に決めてもらい、定期外来の受診支援をしている。病院とは24時間医療連携体制があり、看護師に情報提供したり相談したりしているので、急変時にも十分な対応ができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は隣接する母体病院と関わるようになっており、重度化や終末期に向けた方針は作成していない。方針の作成について管理者は、主治医や運営者と相談して検討する必要があると考えている。	○	重度化や終末期に向けた方針の作成および対応等について、早い時期に本人や家族、運営者、主治医、職員等と話し合い、十分検討されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法や接遇等の研修会に参加し、記録の廃棄はシュレッダーを使っている。利用者への言葉かけもプライドを傷つけない気づかいをしている。居室入口の戸には見守り用の観察窓がある。	○	昼夜を問わず観察窓から居室内が見える。就寝時の安全面を考えて設置されているが、夜間以外は目隠しをする等の工夫をして利用者のプライバシーが守られることが望まれる。管理者は納得し、改善に取り組む意志を表明した。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はアセスメント等で利用者の状況を把握しており、ケアを通して信頼関係を築き、利用者の反応を見ながら、その日の希望を引き出す努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に会話しながら食事している。朝食は母体病院から食材がパックされてきたものをホームで調理しているが、昼食と夕食は病院で調理されて運ばれてくる。	○	片付けは利用者も一緒にやっているが、食事の準備にも利用者がもっとかかわれる機会を提供し支援する意味でも、とりあえず夕食だけでも従来どおりホームで調理することの検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回午前中と決まっているが、希望すれば曜日も時間も変更できる。現在シャワー浴のみであるが、浴槽入浴の希望にも対応できるように取り組みたいと考えている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の特技や趣味を把握している。三味線や囲碁を希望する利用者には職員が準備して一緒に楽しんでいる。食器洗いや洗濯物たたみ、お膳拭きなど能力に応じた支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地内に遊歩道やあずま屋が設置されている。天気の良い日は遊歩道を散歩したり、あずま屋でお茶を飲みながら会話が楽しめる。週1回は利用者の希望する場所にドライブを楽しみながら出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないが、玄関に音の出るセンサーを取りつけてある。利用者が外に出たときは安全面を確認しながら見守りの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣に病院以外にも法人の施設が2ヶ所あり、年に2回合同で消防訓練を行っている。毎回、夜間の火災で火元を各施設内に設定して避難誘導路等の確認をしている。災害時における病院からの応援体制も整っている。		管理者が防火管理者の指定を受け、防災計画も作成されている。4月以後に事業所独自の訓練も計画しているので、その実施に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の管理栄養士による栄養バランスのとれた献立を使っており、毎食の摂取量を確認し、1日の水分量もチェックしている。お茶はテーブルに急須を置いて自由に飲める。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの共用空間は採光も良く、庭園の自然を眺めながら季節を感じることもできる。間接照明で夜はやさしい光に包まれることが推察される。食卓の外にソファとテーブル、六角形の畳間が設置され、くつろいでテレビを観たり、ゆったりと過ごせる空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には事業所が準備した家具以外に利用者が持ってきたものが置かれ、家族からの便りや写真を飾っている部屋もある。部屋を間違えないように入口に大きな字の童謡歌詞や、本人の写真を貼り付ける等の工夫をしている。		